

## 様式第3

## 身体障害者診断書・意見書(呼吸器機能障害用)

## 総括表

氏名	大正 昭和 平成 令和	年月日生( )歳	男女
住所			
① 障害名(部位を明記)			
② 原因となった 疾病・外傷名	交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、疾病、先天性、その他( )		
③ 疾病・外傷発生年月日	年月日・場所		
④ 参考となる経過・現症(レントゲン及び検査所見を含む。)			
障害固定又は障害確定(推定) 年月日			
⑤ 総合所見			
〔将来再認定 要・不要〕 〔再認定の時期 年月〕			
⑥ その他参考となる合併症状			
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。			
年月日	病院又は診療所の名称	所 在 地	科 医師氏名
診療担当科名			
身体障害者福祉法第15条第3項の意見 [障害程度等級についても参考意見を記入] 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当する ( 級相当)</li> <li>・該当しない</li> </ul>			
注 意			
1 障害名には現在起こっている障害、呼吸器機能障害を記入し、原因となった疾患には、肺結核、肺気腫、間質性肺炎等原因となった疾患名を記入してください。			
2 障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めて次項以降の部分について、お問い合わせする場合があります。			

## 呼吸器の機能障害の状況及び所見

(該当するものを○でかこむこと)

### 1 身体計測

身長

cm

体重

kg

### 2 活動能力の程度

- ア 激しい運動をした時だけ息切れがある。
- イ 平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩く時に息切れがある。
- ウ 息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まることがある。
- エ 平坦な道を約 100m、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる。
- オ 息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある。

### 3 胸部エックス線写真所見 ( 年 月 日 )

- ア 胸膜 瘢 着 ( 無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度 )
- イ 気 肿 化 ( 無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度 )
- ウ 線 維 化 ( 無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度 )
- エ 不 透 明 肺 ( 無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度 )
- オ 胸 郭 变 形 ( 無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度 )
- カ 心・縦隔の変形 ( 無 ・ 軽度 ・ 中等度 ・ 高度 )



### 4 換気機能 ( 年 月 日 )

ア 予測肺活量 █ . █ █ L ( 実測肺活量 █ . █ █ L )

イ 1 秒 量 █ . █ █ L ( 実測努力肺活量 █ . █ █ L )

ウ 予測肺活量 1 秒率 █ █ . █ %  $\left[ = \frac{\text{イ}}{\text{ア}} \times 100 \right]$

(アについては、下記の予測式を使用して算出すること。)

肺活量予測式 (L)

男性  $0.045 \times \text{身長(cm)} - 0.023 \times \text{年齢(歳)} - 2.258$

女性  $0.032 \times \text{身長(cm)} - 0.018 \times \text{年齢(歳)} - 1.178$

(予測式の適応年齢は男性 18-91 歳、女性 18-95 歳であり、適応年齢範囲外の症例には使用しないこと。)

5 動脈血ガス (酸素吸入 無・有 … L/分吸入下・年 月 日)

※酸素吸入無しの検査が不可能な場合〔理由: ]

ア O<sub>2</sub> 分圧: □ □ □ . □ Torr

イ CO<sub>2</sub> 分圧: □ □ □ . □ Torr

ウ pH : □ . □ □

エ 採血より分析までに時間を要した場合 □ □ 時間 □ □ 分

オ 耳朶血を用いた場合: [ ]

6 経皮的動脈血酸素飽和度

(酸素吸入 無・有 … L/分吸入下・年 月 日)

ア 安静時 S p O<sub>2</sub> : %

イ 労作時 S p O<sub>2</sub> : % … 労作条件

[ ]

7 その他の臨床所見

[ ]